

第1回 福知山市総合教育会議 報告

日時 平成27年5月20日(水) 午前10時～11時
場所 市民交流プラザ(ききょう) 4-1会議室
参加者 福知山市長 松山 正治
福知山市教育委員会
委員長 倉橋 徳彦
委員長職務代理者 瀬田 眞澄
委員 大槻 豊子
委員 塩見 佳扶子
教育長 荒木 徳尚
市長公室企画課、教育委員会事務局

内容

1 開会 開会あいさつ 福知山市長 松山 正治

2 協議

(1) 福知山市総合教育会議運営要綱の策定について

別紙のとおり、承認

(2) 福知山市教育大綱の策定について

別紙のとおり、承認

(3) その他 意見交換

①「家族だんらんの日」の普及について

(教育委員)

学校や公民館を中心として取組を行い、「家族だんらんの日」が定着してきたが、今後の更なる浸透を図るには民間の各企業に理解していただき、社内でも啓発に取り組んでもらう必要があり市長部局にもご支援を賜りたい。(市長)

- ・「家族だんらんの日」については、福知山市独自の取組みとして、家庭における子どもたちへの非常に重要な取組みであると思っている。
- ・毎月11日には、庁内放送で職員や来庁者に呼びかけているなど、浸透にも努力していきたいと考えている。
- ・民間への更なる浸透についても教育委員会事務局と連携し実施していきたいと考えているところである。

②施設一体型の小中一貫校について

(教育委員)

小中一貫校である夜久野学園が開校し、本年で3年目となり平成33年度には、複式学級設置校は、9校に増え、その内、複複式学級設置校が4校となる見込みの中、今後においても、施設一体型の小中一貫校としての再編も視野に入れて取り組んでいきたいと思っているがいかがか。

(市長)

- ・小中一貫校については、夜久野学園において、地域と一体となった学校運営に努めておられると聞いている。
- ・今後、それぞれの地域ともよく話し合いながら、こういった形がよいのか

十分に議論していくことが重要と考えている。

③子どもの貧困対策について

(教育委員)

子どもの貧困による学力低下を防ぐため、従来の取組を強化すると共に、学校を子どもの貧困対策のプラットフォームとして位置づけた新しい施策を始めるが、今後、ますます市長部局との連携が必要と思うがいかがか。

(市長)

- ・これからの福知山市を担っていく子どもたちにとって、この貧困の問題というのは重要な問題だと認識している。
- ・経済的な事情で二極化が広がり、将来に対する夢を描くことすら出来ない子どもが出てくるのではないかと心配になる。
- ・4月から本格的に貧困対策に当る部署を設定した。
- ・教育の場だけでなく、家庭の中など福祉部門や就労支援部門としっかりと連携して取り組んでいきたい。

④教育関係予算について

(教育委員)

新給食センターの完成に伴い、市内の中学校で完全給食が始まり、給食に対する十分な配慮がなされていることとあわせて、給食配膳員の配置が大きな意味をもつものと考えている。

あわせて、学校の耐震化、エアコンの設置においても計画的に予算を付けていただき、推進していることにも嬉しく思っている。

(市長)

- ・現在、最優先課題であった学校の耐震化が一定完了する見込みとなったことで、エアコンの設置についても進めている状況である。
- ・教育環境の整備については、学校が子どもたちにとって安心して学べる場にしていくことが大切であり、取り組んできたところである。

⑤小中一貫校の設置について

(教育委員)

総合計画をもとにした大綱には明記していない課題として、閉校による校舎の利活用が新たな課題となっている。また、合併10周年を踏まえ、三和、夜久野、大江地域の教育のあり方として、義務教育学校（施設一体型小中一貫校）の制度化をにらんだ夜久野学園の教育効果を波及させるため、三和・大江にも小中一貫校を設置することも検討しており、地域の意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

(市長)

- ・旧3町地域の振興策については、こちらから提起しているようなこともあるが、なかなか進展していない状況がある。教育の問題についても大変重要な課題でもあるので、そういったことがまとまれば早く進めてもらえればよいと思う。

3 閉会

閉会あいさつ 福知山市教育委員会委員長 倉橋 徳彦